

眠っているラケットが、国際交流の懸け橋に！

長崎県内バドミントン愛好家の皆様へ

令和5年11月1日
長崎県バドミントン協会
会長 里脇 清隆

日頃よりバドミントン競技の普及にご尽力を賜り、誠にありがとうございます。

さっそくですが、ジブチ（アフリカ東部の小国）でバドミンの普及活動をされておられます、長崎市出身の大田孝さんを、皆様ご存じでしょうか？！

大学生の時には全日本学生選手権（インカレ）に出場し、中高生への指導経験もある方です。

現在、大田さんは国際協力機構（JICA）の専門家として、ジブチで沿岸警備隊の支援業務に従事。本業の傍ら、ボランティアで現地若者達の自立に向けたサポートを行われ、そのひとつの活動としてバドミンの技術指導にも着手され、近年、ジブチでのバドミン連盟も立ち上がるなど、競技者も増えているということです。

但し、環境整備はまだまだ整わず、練習ではラケットは不足し、裸足でプレーする子供達も少なくないとのこと。

そこで、長崎県バドミントン協会としましても、スポーツ精神の養成に寄与することを目的とし、長崎出身の活動家への支援の一環として、用具の寄贈を考えております。

皆様のご自宅に、使わなくなったバドミントン用具（ラケット/ガット無し可、未使用小物等）はございませんか？

もし、寄贈頂けるバドミントン用具がございましたら、長崎県バドミントン協会事務局までご連絡頂くか、県協会主催・主管大会開催時にご持参頂ければ助かります。

【受付窓口】

〒856-0806 長崎県大村市富の原二丁目 785 番地 （株）OCM 内
長崎県バドミントン協会 総務部長 池田 信二宛（090-5924-3821）

尚、今後の受付窓口につきましては、各郡市協会及び加盟団体とも協議し、なるべく多くの機会と場所を設けたいと思います。

以上